

メガ・ドラッグストアに調剤薬局を併設した 最も身近なヘルスケアセンター

2022年3月期
決算説明会



カワチ薬品

2022年5月10日

証券コード:2664

※ 本資料に掲載しております業績予想は現時点における事業環境に基づくものであり、今後様々な要因によって予想と実際の業績が異なる可能性があります。予めご承知おきくださいますよう、お願い申し上げます。

目次

1. 2022年3月期:連結業績
 - (1) 決算概要
 - (2) 実績について
2. 2023年3月期 見通し
3. 中期計画について

1. 2022年3月期:連結業績

(1)決算概要

◆ 連結決算ハイライト

(単位:百万円、%)

	2021.3期			2022.3期		
		構成比	前期比		構成比	前期比
売上高	284,492	100.0	105.2	279,462	100.0	98.2
売上総利益	64,678	22.7	110.2	63,149	22.6	97.6
営業利益	10,560	3.7	186.1	7,709	2.8	73.0
経常利益	11,581	4.1	176.2	8,698	3.1	75.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,109	2.5	186.0	4,830	1.7	68.0
EPS(円)	318.7			216.4		
BPS(円)	4,517.5			4,682.6		
DPS(円)	50.0			50.0		

⇒ 感染症拡大の影響から予防関連商品及び巣ごもり消費関連増。
⇒ まとめ買い傾向続き粗利益率改善。
⇒ 広告宣伝自粛により販管費抑制。

⇒ 予防商品は堅調なものの、緊急事態宣言下巣ごもり需要反動減の影響大。
⇒ 下期出店増による販管費負担増。
⇒ 主に土地価格下落による減損計上。

◆ 出店及び退店の状況

(単位:店)

2022.3期	上期			下期			累計			
	Dg.S	調剤併設	退店	Dg.S	調剤併設	退店	Dg.S	調剤併設	退店	増減
出店数合計	2	1	1	9	9(1)	1	11	10(1)	2	9
東北地方	0	1	1	3	5	0	3	6	1	2
関東地方	2	0	0	6	4(1)	1	8	4(1)	1	7
甲信越・東海地方	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<ご参考> 2021.3期	上期			下期			累計			
	Dg.S	調剤併設	退店	Dg.S	調剤併設	退店	Dg.S	調剤併設	退店	増減
出店数合計	1	3	0	7	4	1	8	7	1	7
東北地方	0	2	0	1	1	0	1	3	0	1
関東地方	1	1	0	6	3	0	7	4	0	7
甲信越・東海地方	0	0	0	0	0	1	0	0	1	△ 1

※調剤併設欄の()内には閉局数を表示しております。

店舗数	2021.3期		2022.3期	
		前期比		前期比
店舗数合計	346	7	355	9
ドラッグストア	346	7	355	9
内、調剤薬局併設	123	7	132	9

◆ 連結地域別売上高

(単位:百万円、%、店)

	2021.3期			2022.3期		
		構成比	前期比		構成比	前期比
売上高合計	283,591	100.0	105.3	278,544	100.0	98.2
(店舗数)	346		7	355		9
東北地方	90,189	31.8	102.3	87,195	31.3	96.7
(店舗数)	114		1	116		2
関東地方	174,590	61.6	106.8	173,025	62.1	99.1
(店舗数)	208		7	215		7
甲信越・東海地方	18,811	6.6	105.4	18,323	6.6	97.4
(店舗数)	24		△ 1	24		0

(注)不動産賃貸収入は含まれておりません。

(単位:人)

	2021.3期	2022.3期
従業員数	6,826	6,946
社員	2,703	2,765
パート、アルバイト等	4,123	4,181

(注)パート、アルバイトは1人1日8時間換算、年間平均雇用人員で算出。

◆ 連結部門別売上高

(単位:百万円、%)

	2021.3期			2022.3期		
		構成比	前期比		構成比	前期比
売上高合計	283,591	100.0	105.3	278,544	100.0	98.2
医薬品	50,958	18.0	109.5	50,839	18.3	99.8
化粧品	20,680	7.3	91.4	20,816	7.5	100.7
雑貨	79,613	28.1	104.4	78,344	28.1	98.4
食品	132,338	46.6	106.7	128,544	46.1	97.1

(注)不動産賃貸収入は含まれておりません。

◆ 連結損益計算書

(単位:百万円、%)

	2021.3期			2022.3期		
		構成比	前期比		構成比	前期比
売上高	284,492	100.0	105.2	279,462	100.0	98.2
売上原価	219,813	77.3	103.9	216,313	77.4	98.4
売上総利益	64,678	22.7	110.2	63,149	22.6	97.6
販売費及び一般管理費	54,117	19.0	102.0	55,439	19.8	102.4
人件費	28,782	10.1	103.5	29,563	10.6	102.7
広告宣伝費	2,870	1.0	84.5	3,185	1.1	111.0
その他	22,465	7.9	102.9	22,690	8.1	101.0
営業利益	10,560	3.7	186.1	7,709	2.8	73.0
営業外収益	1,441	0.5	110.0	1,399	0.5	97.0
営業外費用	420	0.1	102.0	409	0.2	97.4
支払利息	61	0.0	92.7	49	0.0	80.4
経常利益	11,581	4.1	176.2	8,698	3.1	75.1
特別利益	42	0.0	21.8	0	0.0	1.3
特別損失	987	0.4	100.0	1,011	0.3	102.4
法人税、住民税及び事業税	3,941	1.4	157.6	2,922	1.1	74.2
法人税等調整額	△ 414	△ 0.2	-	△ 65	△ 0.0	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,109	2.5	186.0	4,830	1.7	68.0

◆ 連結貸借対照表

【主な増減項目】

(単位:百万円)

	2021.3期	2022.3期	期末比 増減額
資産合計	194,100	191,721	△ 2,378
流動資産	82,796	81,422	△ 1,374
現金及び預金	41,235	38,959	△ 2,276
商品	30,729	31,402	672
固定資産	111,303	110,298	△ 1,004
建物及び構築物	40,153	39,826	△ 326
土地	50,105	49,601	△ 504
差入敷金保証金	7,988	7,832	△ 155
負債合計	93,243	87,071	△ 6,171
流動負債	65,037	60,665	△ 4,371
買掛金	41,220	40,625	△ 594
1年内返済予定長期借入金	10,259	9,200	△ 1,058
未払法人税等	3,065	1,217	△ 1,847
固定負債	28,205	26,406	△ 1,799
長期借入金	16,151	13,719	△ 2,432
純資産合計	100,857	104,649	3,792

◆ 連結キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

	2021.3期	2022.3期
I 営業活動によるキャッシュフロー	15,267	6,868
税金等調整前当期純利益	10,636	7,687
減価償却費	4,473	4,424
減損損失	768	944
賞与引当金の増減額(△は減少)	140	△ 176
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	414	498
ポイント引当金の増減額(△は減少)	166	175
売上債権の増減額(△は増加)	1,112	△ 482
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 101	△ 670
仕入債務の増減額(△は減少)	△ 413	△ 594
法人税等の支払額	△ 2,628	△ 4,977
II 投資活動によるキャッシュフロー	△ 3,152	△ 4,536
III 財務活動によるキャッシュフロー	△ 3,984	△ 4,607
借入金の純増減額(△は減少)	△ 3,007	△ 3,490
自己株式の増減額(△は増加)	36	△ 0
配当金の支払額	△ 1,002	△ 1,115
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
V 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	8,129	△ 2,276
VI 現金及び現金同等物期首残高	33,105	41,235
VII 現金及び現金同等物期末残高	41,235	38,959

(2)実績について①

連結実績(計画比)

(単位:百万円、%)

2022.3期	計 画			実 績			計画比	
		構成比	前期比		構成比	前期比	増減	計画比
売上高	282,000	100.0	99.1	279,462	100.0	98.2	-	99.1
売上総利益	63,800	22.6	98.6	63,149	22.6	97.6	0.0	99.0
販管費	55,800	19.8	103.1	55,439	19.8	102.4	0.0	99.4
営業利益	8,000	2.8	75.8	7,709	2.8	73.0	0.0	96.4
経常利益	9,000	3.2	77.7	8,698	3.1	75.1	△0.1	96.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,800	2.1	81.6	4,830	1.7	68.0	△0.4	83.3

主に土地の価格下落等
による減損損失を計上

(2)実績について②

1. 出退店の状況

【()は退店】

	新規出店	計画	実績
連結	出店数	11 (2)	11 (2)
	調剤併設数	10 (1)	10 (1)

➤ メガタイプ6件、サテライトタイプ5件

2. 既存店の状況

(単位:%)

連結	計画	実績	計画比
<売上高>	- 1.9	- 2.7	- 0.8

3. コスト低減に向けた取り組み

- ① セルフレジの導入を推進
- ② ドミナント拡大によるチラシ枚数の削減
- ③ 販促日を分散、まとめ買いを促進

2. 2023年3月期 見通し

➤ 消費環境

先行き不透明感続く

⇒ 生活費増による選別、節約は続く一方、
問題解決特化型やコト消費は顕在

➤ 小売環境

急変する消費動向への対応

原材料高、燃料費増等への対策急務

⇒ DX推進、システム化加速へ

➤ 業界環境

出店加速、一段と狭商圈化へ

⇒ 業態超えた戦い続き、差別化策強化へ

2023.3月期計画(1)

1. 出(退)店について

【()は退店】

		上期	下期	通期
連結	店舗	4 (-)	12 (2)	16 (2)
	調剤	3 (-)	10 (1)	13 (1)

⇒ メガタイプ + サテライトタイプ
によるドミナント強化

⇒ 調剤併設型新店増

2. 既存店活性化について

⇒ 敷地内テナント誘致継続

⇒ 改装や営業時間の延長

2023.3月期計画(2)

3. 営業方針

- 固定客化と新規顧客獲得に注力
 - ⇒ ポイント会員獲得に注力
- 需要喚起策
 - ⇒ オリジナルキャンペーン継続
 - ⇒ 販促施策の最大化へ

＜既存店：計画：旧基準概算値＞

(単位：%)

2023.3期連結	上期	下期	通期
計画	-0.6	0.7	±0

◆ 連結業績予想 ①

(単位:百万円、%)

	2022.3期 (実績)		2023.3期 (計画)		【参考】旧基準概算 2023.3期 (計画)		
		構成比		構成比		構成比	前期比
売上高	279,462	100.0	283,000	100.0	284,500	100.0	101.8
売上総利益	63,149	22.6	65,500	23.1	65,500	23.0	103.7
営業利益	7,709	2.8	8,200	2.9	8,200	2.9	106.4
経常利益	8,698	3.1	9,200	3.3	9,200	3.2	105.8
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,830	1.7	5,500	1.9	5,500	1.9	113.9
EPS(円)	216.4		246.4		246.4		
DPS(円)	50.0		50.0		50.0		

◆ 連結業績予想 ②

【出店・退店計画及び店舗数】

(単位:店)

	2023.3期(計画)				
	出店(退店)			増減	店舗数 合計
	上期	下期	通期		
ドラッグストア	4 (-)	12 (2)	16 (2)	14	369
内、調剤薬局併設	3 (-)	10 (1)	13 (1)	12	144

【部門別売上高計画】

(単位:百万円、%)

連結	2022.3期(実績)		2023.3期(計画)		【参考】旧基準概算 2023.3期(計画)		
		構成比		構成比		構成比	前期比
合計	278,544	100.0	282,100	100.0	283,600	100.0	101.8
医薬品	50,839	18.3	51,600	18.3	51,600	18.2	101.5
化粧品	20,816	7.5	21,300	7.6	21,300	7.5	102.3
雑貨	78,344	28.1	79,600	28.2	80,200	28.3	102.4
食品	128,544	46.1	129,600	45.9	130,500	46.0	101.5

(注) 不動産賃貸収入は含まれておりません。

3. 中期計画について

<元計画>

1. 2024年3月期

連結売上高3,000億円

店舗数400店以上、ROE6%以上

2. 成長戦略

① 出店戦略

* 強固なドミナントの形成

= シェア率の拡大

* 調剤併設率向上 = 専門性強化

② 物流体制・システム強化

* 独自の体制確立へ = 収益力向上

③ DX推進による収益力強化

中期経営方針

1. 出店方針

- メガ+サテライトによる出店
- 調剤併設率40%

2. 物流システム刷新に伴う コスト削減策を推進

- オペレーション効率化に向けた取り組み
 - ① 物流及びPOSシステムの刷新
 - ② 自動発注カテゴリー増
 - ③ AIを活用した稼働計画の精度向上
 - ④ 間接部門における効率化を推進

健康で快適な生活の実現に向けて

